

令和6年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(大館市)

1 市の概要(人口66, 218人)※令和6年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和6年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
1園	0園	8園	10か所	0園	0園	17校

その他:へき地保育所5 地域型保育2 事業所内4 認可外0

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
<p>(1) 教育・保育の質の向上に向けて、教職員の資質向上、園内リーダーの養成と園内研修の充実等の体制が構築されたが、それらの幼児教育センター機能を安定させていく必要がある。</p> <p>(2) 多様な保育施設、多様な働き方の職員が協働する中、市が目指す就学までに育てたい力、保育・教育の在り方を共通理解し、具体的実践に移していくには園ごとの温度差がある。</p> <p>(3) 小学校との情報共有と合同研修はあるものの、小学校入学後の生活や学習への適応や指導に困難を抱える事例が見られる。</p>

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目的(3年間)
<p>将来の自立を見据え、就学前の段階で育てるべき力を明確にし、教育・保育の一層の充実を図る。ふるさとキャリア教育の理念の下に、就学前から小学校低学年までを「人間的基礎力」を育成する時期として、関わる教職員が、子ども理解の在り方、教育・保育課程や指導方法等について共通理解を図り、連携を推進する。</p>
主な内容(3年間)
<p>(1) 教育委員会と子ども課の連携による幼児教育センター機能の運用 ・教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導、事業・研修会を共同開催</p> <p>(2) 教育・保育アドバイザーによる市内全園への巡回訪問・指導 ・教育委員会教育研究所に、教育・保育アドバイザー1名を継続配置 ・市福祉部子ども課の保育アドバイザーと本事業の教育・保育アドバイザーを核に据えた訪問指導体制</p> <p>(3) 教育・保育アドバイザー並びに市内全園の研修リーダーの養成 ・主任、ミドルリーダーの研究推進</p> <p>(4) 基幹保育園の公開保育による研究成果の発信 ・基幹保育園、園長会議、主任会議との連携による研究推進 ・基幹保育園以外の園、近隣市町村への研究成果の発信、研修機会の提供</p> <p>(5) 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の充実 ・市主催による合同研修会、相互の研究会への参加の促進</p> <p>(6) 接続期カリキュラム作成に向けた調査研究 ・幼保小の架け橋プログラム研究事業によるカリキュラム共同研究・開発 ・幼保小合同授業・保育、交流の参観、及び研究協議への参加</p> <p>(7) 秋田県教育庁幼保推進課との連携体制の強化、市町村とのネットワークの構築 ・県就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会への参加 ・最新情報を得ながら、県からの助言をもとにした体制や研究内容の見直し</p>
年度別重点
<p>令和4年度 架け橋充実期のカリキュラム(素案)に向けて、0歳から5歳児までの保育・教育の成果と課題を整理する。</p>

	就学前施設・小学校の教職員相互の研究会や合同研修会への参加を促進する。
令和5年度	幼保小の架け橋期の保育・教育の改善を図る。幼保小の架け橋期のカリキュラム（市共通版）の見直しと各小学校区における架け橋充実期のカリキュラム完成。各小学校区の各園と各校の交流や職員間の共通理解を図る。
令和6年度	幼保小の架け橋期、並びに架け橋期につながる0歳からの保育・教育の充実を図る。架け橋充実期のカリキュラムをもとにした各園・各校の保育・教育の実践、検証により、教育・保育の質の向上を図る。全小学校区における架け橋期のカリキュラム完成。

わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業 事業の概要(大館市)

4 令和6年度の具体

目 的

○ふるさとキャリア教育の理念の下、就学前から小学校低学年までを「人間的基礎力」を育成する時期＝架け橋期として、それに関わる保育者・教職員が教育・保育の指導や援助等について共通理解を図り、一層連携を推進する。

実施内容及び実施状況(中間)

(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実

○教育委員会と子ども課の連携による幼児教育センター的機能の強化

① 教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導

- ・子ども課の保育アドバイザー、教育研究所教育・保育アドバイザーの定期的な打ち合わせの実施、訪問、連携事業の推進
- ・各園の要望に応じた訪問、研修への支援
- ・基幹保育園園長会、所長会への参加、情報提供、助言(月1回)
- ・基幹保育園主任会との連携による研究推進への助言(月1回)
- ・小学校授業研究会への参加

② 共同開催事業の実施

- ・昨年度から就学前から中学校までの「個別の教育支援計画」の様式の統一、データ化を図り、支援に係る情報を確実にデータで引き継ぐ取組を開始した。
- ・幼児通級指導教室「育ちの教室ぐんぐん」(9～3月)～入学前の集団生活での生活や学習に不安をかかえている年長児を対象に、少人数集団で通級指導を実施。指導スタッフとして、子ども課と教育委員会が支援に当たっている。
- ・満5歳すてっぷ相談(年間12回)～就学を見通し集団への不応、人との関わりが苦手な子どもの早期発見、就学に向けた「生活習慣づくり」の保護者講話・相談を実施。子育て講話「安心して小学校入学を迎えるために」を教育委員会が担当。
- ・子ども課と小学校との連携による就学時健診の実施。子どもについての事前情報の共有、その後の保護者面談を連携して実施している。保護者に対しては、県が作成したリーフレットを活用して、架け橋期の育ちと学びのつながり、子育てへの理解を図っている。

○「育ちの教室ぐんぐん」、「満5歳すてっぷ相談」、就学時健診、諸検査、各種相談歴を連動させ、就学情報支援ファイルを作成することにより、早期支援のための在籍園・小学校への情報提供、関係機関との情報共有、保護者への継続的なサポートを可能にしている。

○教育委員会主催の研修会への保育士等の参加者が増えており、幼保小の育ちや学びについての関心が高まっている。

③ 研修会の実施

<市主催研修会>

- ・4歳児担任研修会(満5歳すてっぷ相談) (6/14, 7/5, 7/26, 8/23)
- ・幼保小連携推進会議(5/24)
- ・幼保小担任研修会(5/30)

- ・年齢別研修会（5回） 0歳児（7/23） 1歳児（8/28） 2歳児（9/19）
3歳児（10/9） 4歳児・5歳児（5/8）
- ・ファシリテーター研修会（基礎編）（6/26）
- ・大館市教職員夏季研修会（7/31）
- ・ファシリテーター研修会（応用編）（10/25、12/19）
- ・教職員研究実践発表会（1/8）
- ・子どもの虐待対応研修会（1/21）
- ・保育研究実践発表会（2/13、2/14）

*成果と課題については、
 (3)「専門性の向上のための研修の充実」①市主催研修会の開催
 の項目において記述。

(2)「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

教育・保育アドバイザーによる市内全園への巡回訪問・指導

- ・私立の認定こども園への協力要請

◇令和6年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する実施状況（大館市）

⑥派遣状況 計43施設/全47施設 167回	
回	・幼稚園：私立1園（1回） ・保育園：公立9園（70回）、私立1園（3回）
数	・幼保連携型認定こども園：私立 8園（21回） ・その他の施設：（へき地保育所5園（19回） 児童館0か所（0回） 小規模保育施設2か所（13回）、 認可外保育施設0か所（0回）、事業所内保育施設4か所（16回）） ・小学校：17校（24回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、13園（31回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、5園（5回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、4園（2回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、3園（7回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、30園（49回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、20園（20回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、6園（14回） 10校（15回））
理由	基幹保育園である公立保育園への年間を通じた継続的な支援により、市が目指す保育の方向性を具現化するとともに、園内研修のモデルとして他園にも広げていく役割を果たす。私立園やへき地保育所には、継続的に幼保連携便りを配布しながら研修や訪問のメリットを具体的に周知するための訪問を増やしていく。子ども理解と接続等における教職員の相互理解のために幼保小との連携を図る。

○園内研究の課題に対する助言や保育の様子を見てほしいという要望があり、年度当初の予定にはない訪問が増えた。保育の質向上を目指して園が熱心に取り組んでいる。

●訪問による指導・助言を生かして保育の質の向上につなげているところとそうでないところの差があるため、訪問後の状況確認と園長や研究担当者の支援に取り組みたい。

(3)「専門性の向上のための研修の充実」

① 市主催研修会の開催

- 4歳児担任等研修会（6/14, 7/5, 7/26, 8/23） 4歳児担任等対象 19名参加
 内容「満5歳すてっぷ相談」における保護者への講話と絵本の読み聞かせの参観
 講師（講話） 大館市教育研究所 副主幹 山本多鶴子氏
 （読み聞かせ） 公立保育園主任

<アンケートより>

- ・今の時代は、こどもより大人中心の生活になってきているので保護者の負担や大変さを理解しながらも子ども優先の生活を意識し、同じ気持ちで進めていけるように家庭や保育所での様子をこまめに伝え合っていきたい。保育所で実践して良かった点や負担なく

継続できる方法を一人一人の保護者に寄り添って考えていきたい。
 ○担任と保護者一緒に講話を聴く形は、入学を迎える子どもへの関わり、子どもの育ちについての理解など保護者との連携を図る上で有効であった。
 ◇この形は次年度も続けていきたい。

□年齢別研修会

研修名（日時）	内容	講師	参加者数
4.5 歳児担任研修会 (5月8日(水))	「幼児の充実期を支える保育を一緒に考えよう」	柴田学園大学短期大学部 学長 島内 智秋 氏	73名
0 歳児担任研修会 (7月23日(火))	<ul style="list-style-type: none"> ・「0歳児の保育は最重要」 ・「こころとからだを育てる遊びの環境」 ・情報交換 	福祉部子ども課 保育アドバイザー 鎌田 晴美	18名
1 歳児担任研修会 (8月28日(水))	<ul style="list-style-type: none"> ・「1歳児から2歳児へつなぐ」 ・「こころとからだを育てる遊びの環境」 ・情報交換 		30名
2 歳児担任研修会 (9月19日(木))	<ul style="list-style-type: none"> ・「2歳児から3歳児へつなぐ」 ・「こころとからだを育てる遊びの環境」 ・情報交換 		27名
3 歳児担任研修会 (10月9日(水))	<ul style="list-style-type: none"> ・「3歳児から4歳児へつなぐ」 ・「こころとからだを育てる遊びの環境」 ・情報交換 		24名



4.5 歳児担任研修会



手遊びを紹介

<アンケートより>

- ・ 普段慣れているグループ協議と違い少し戸惑った。一つの領域で話し合うことが新鮮だった。架け橋プログラム＝5歳児のイメージが強かったが、4歳児での経験が大きく関わることを改めて考える機会となった。普段から、年長へのつながりを意識し、見通しをもった関わりをもてるようにしたいと思った。
- ・ 絵本の紹介ではその絵本にまつわるエピソードやそこに至るまでの遊びの経緯を 聞いたり、遊びの進め方の参考になったりして良かった。食べ物や動物、乗り物など興味の幅が広い1歳児、今日覚えた手遊びを参考に一緒に触れ合いながら保育をしていきたい。
- ・ 1つの年齢だけでなく、つながりを意識しながら子どもと関わって保育していくことの大切さを再確認した。

○架け橋プログラムの取組により年長児の育ちが大きく取り上げられているが、そこに至るま

での0歳から4歳までの保育が大切であることを意識してほしいと願い、今年度は、各年齢の講話に上の年齢との繋がりを盛り込み、研修会を実施した。アンケートには、つながりを意識して保育をしていきたいとの感想が多数あり、実践に繋がることを期待している。

○情報交換の場は、先生たちが実践にすぐに活かせる絵本・手遊び・手作り玩具等を知る機会となっていて、継続を要望する声が多い。

◇次年度も情報交換の場は設けたい。講話についても内容や講師を検討して、保育に関する幅広い情報を提供していきたい。

□ファシリテーター研修会

研修名（日時）	内容	講師	参加者数
ファシリテーター研修会（基礎編） （6月26日（水））	・「ファシリテーターの役割と進め方」 ・演習	北教育事務所 指導主事 岡部 賢哉 氏	19名
ファシリテーター研修会（応用編） （10月25日（金））	・「ファシリテーターの実践」 ・演習		18名
ファシリテーター研修会（応用編） （12月19日（木））	・「ファシリテーターの実践」 ・演習		16名

<アンケートより>

- ・実際の協議を2回行うことで、進め方やグルーピングの仕方について他園の先生方を見て学ぶことができた。また、視点を変えることで、願い（A）が変わり環境（P）も変わることがとても勉強になった。
- ・共感してもらえることで意見が出しやすい空気になり、たくさんの意見が出ることを学べたので実践していきたい。
- ・協議中に意見が止まってしまったが、進める・意見を引き出す具体的な方法を教えてもらうことができた。自分だけでは考えつかないが、アドバイスをもらうことで自分の引き出しが増えた。
- ・協議をしながら「自分の園ではこんな進め方をしている」と情報交換できたので、様々な園のやり方を学ぶことができた。自園の先生方にも伝え協議に生かしていきたい。

○基礎編は保育の動画を見ての協議であったが、全員が同じ場面を見ての協議は、進め方やまとめ方、多様な見取り等の比較がしやすかったと考える。

○園なりの工夫をしながら SOAP に取り組む園も増えていて、この研修会が情報交換の場にもなっている。

□子どもの虐待対応研修会(1/21)実施 就学前教育・保育施設職員対象 33名参加

内容 講話 児童虐待を取り巻く現状、SOSに気付くポイント、虐待対応の基本等々
演習 事例～発見から通告まで・通告後を考える

講師 大館市 福祉部 子ども課 児童相談係
主査（社会福祉士） 松田 さとみ 氏 小間屋 壮 氏

<アンケートより>

- ・現場に添ったリアルな事例に対する、他の保育士等の視点を聞くことができ良かった。虐待対応の基本を学び、「疑わしき時点」での敏速な対応がいざという時に役立つと感じた。
- ・事例があり大変分かりやすかった。子ども課の具体的な対応の仕方、園での対応の仕方なども分かりやすく、他の参加者の意見も聞くことができ良かった。

・普段の保育の中で保護者とのコミュニケーションがどれだけ大事なことなのかわかった。虐待について遠い存在であると思わず、身近にあるものと考えて子どもと保護者と関わっていきたいと感じた。

○事例をもとにした演習により、講話の内容の理解が深まった。

② 基幹保育園ミニ公開保育の開催

大館市就学前教育・保育施設職員を対象に公立・指定管理園・乳児保育園・認定こども園12園の保育・研究協議を公開することにより、自園の保育の質の向上につなげることをねらいとして実施した。事前に各園の研究テーマとサブテーマを情報提供し、参加者も自園の研究に生かせるようにした。

実施園	公開日	内容	参加者数
釈迦内保育園	7月5日(金)	保育公開	40名
有浦保育園	7月10日(水)	保育・研究協議公開	24名
大館ホテヤ第二こども園	7月16日(火)	保育公開	31名
十二所保育園	7月25日(木)	保育・研究協議公開	18名
西館保育園	8月27日(火)	保育公開	21名
大館八幡こども園	9月18日(水)	保育公開	34名
城南保育園分園	9月25日(水)	保育・研究協議公開	15名
扇田保育園	10月8日(火)	保育・研究協議公開	16名
大館乳児保育園	10月18日(金)	保育公開	16名
城南保育園	10月25日(金)	保育公開・ファシリ研修	21名
たしろ保育園	10月29日(金)	保育・研究協議公開	19名
東館保育園	12月19日(木)	保育公開・ファシリ研修	21名



<アンケートより>

- ・他園に参加することで自園の保育を振り返る機会となり、気付いたことや活かしたいポイントがあった。まずは、園内で保育を見合う・参観し合う工夫をしていきたい。写真も活用の仕方によっては協議を深め保育に活かせるので取り入れていきたい。
- ・実際に午前中から見させていただいた子どもたちの姿から、先生方のSOの広げ方、グループピッキングがとても細かく、参観させていただいた私もとても分かりやすかったです。Aを出すのが難しいと感じるのですが、Pと出す(一緒に出す)と考えると、スムーズに進むなと感じました。
- ・自園とは違った話し合いの仕方でも参考になりました。自分は記録を担当することが多く毎回悩

みながらやっていますが、大事なところを書き出したり大きく端的に見出しを付けたりすることを真似していきたいと思いました。

○これまでのミニ公開保育は保育だけの公開であったが、他園の協議を見ることで学ぶことも多いのではないかと考え、今年度は可能な園に協議も公開してもらった。参観者のアンケートからは、協議の仕方における自園との違いや取り入れたいこと、子どもの姿と協議の関連性等への感想が多く見られた。保育と協議のどちらも見ることで他園から学ぶことが深まるのではないかと感じている。

③ 基幹保育園（5園）主催の研修会：オーダーメイド研修会

・公立園長会で研修内容が重ならないように調整し、多様な研修を受講できるようにしている。

実施園	実施日	内 容	講師	参加者数
大館感恩講	6月24日（月）	「性格は変わらずとも行動は変わる」	西館保育園 園長 佐藤 和博 氏	18名
	11月22日（金）	「不適切な保育に陥らないために」		16名
城南保育園	7月4日（水）	幼児安全法 子どもの心肺蘇生とAED	日本赤十字秋田県支部	23名
有浦保育園	8月9日（金）	「子どもの発達を見る目とポイント」	大館市立花岡小学校 花田 一雅 氏	46名
扇田保育園	11月13日（水）	「キッズ食育講座」	大館市健康課 長谷部 朋子 氏	22名
たしろ保育園	12月18日（水）	「メディアとのよい付き合い方 ～園ができること～」	比内支援学校 教育専門監 藤田久美子 氏	26名
城南保育園分園	1月15日（水）	ボッチャ体験	大館スポーツ振興課 スポーツ交流推進係	24名

（4）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

① 就学前教育施設と小学校との円滑な接続のための支援

□小学校の授業参観と協議・保育参観と協議・保育士体験

小学校では、園の先生方による1年生の授業参観が実施されている。多くの小学校は、1学期の早い段階で授業参観と情報交換、交流の打合せをしている。また、PTA授業参観日やみんなの登校日に保育園の先生を招待する学校もある。保育園でも、要請訪問や関係者評価、園行事に小学校の職員を招待して、保育参観を行っている。参観後に、小学校の先生も参加して研究協議を行う園も少しずつではあるが増えてきている。また、夏休み・冬休みを利用して、小学校教諭が保育士体験を行っている園もある。

今年度は、架け橋充実期のカリキュラムの検証と架け橋期カリキュラムの作成に向けて、園と小学校の職員が子どもの姿や育ちについて話し合う機会が増えている。



就学前施設と小学校による
カリキュラム検証の様子

○架け橋カリキュラム作成合同会議では、学区の共通の視点に沿った子どもたちの姿の検証が行われ、学区の子どもの理解が深まり、成果や課題も明らかになってきた。

○共通の視点は、交流活動のねらいとして位置づけられてきている。

□幼保小連携だより「つなぐ」の定期発行（月1回）

- ・大館市の全就学前教育・保育施設（30施設）のほか、全小学校、北教育事務所、他市の保育アドバイザーに配布。
- ・わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業について、就学前教育・保育と小学校の教育の連携のための情報提供、研修や交流の実施状況、感想等を掲載している。
- ・保育と教育双方の理解を深めるための特集として交流の実践例、合同協議の内容・様子などを掲載している。
- ・架け橋期のカリキュラム作成に向けての各学区の動きや取組を紹介している。

○園と小学校との交流、小学校職員の保育参観・体験、研究協議への参加等の情報提供により、それを参考にした子ども同士の交流、職員の研修などが行われ、学区間の差が少しずつ解消されてきている。

○架け橋カリキュラム作成合同会議に関する情報提供、取組の手順、進捗状況等をこまめに知らせることによって、先生方の共通理解の手助けとなり不安や疑問などの解消に繋がっている。

② 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の実施

□幼保小連携推進会議（5/24） 園長・主任、教頭等対象 48名参加

内容・「幼保小の架け橋プログラム調査研究事業について」

大館市教育研究所 副主幹 山本 多鶴子 氏

・実践発表

「幼保小の架け橋プログラム大館市モデル地区釈迦内小学校区の実践について」

釈迦内小学校 校長 佐藤 潔 氏

向陽こども園 主幹保育教諭 佐々木 夕子 氏

- ・学校区版カリキュラムの確認、連携の年間予定の協議等（学校区ごと）

○先行学区の実践発表により、子どもたちが変わっていく姿や取組の過程が具体的にイメージされ、他学区の先生方の意欲を高め、見通しをもつことに繋がった

□幼保小担任合同研修会（5/30） 年長児・小1担任等対象 50名参加

内容・「幼保小の架け橋プログラム調査研究事業について」

大館市教育研究所 副主幹 山本 多鶴子 氏

- ・学校区版カリキュラムの確認、連携・交流活動の具体について（学校区ごと）

○学校区版カリキュラムがあることで、ねらいを明確にもった連携や交流が計画されていた。



幼保小連携推進会議



幼保小担任合同研修会

□大館市教職員夏季研修会（7/31） 大館市教職員・就学前施設職員等対象

「通常学級における特別な支援が必要な子どもの理解と支援」

スマイル・サポート

宮城学院女子大学教育学部教育学科 教授 梅田 真理 氏

参加者 150 名

<アンケートより>

- ・「他の子たちと同じように学ばせたい」「ここまで到達させたい」と思ってしまった。一人一人の特性を理解できていなかったと痛感した。
- ・引継ぎについて、自立に向けて支援のリレーになるように、その子の特性を生かすこと、見つけること、その子の成長を喜ぶこと、その子が困ったときの拠り所をしっかりと伝えていくことを心に留めておきたい。

「発達障害のある子どもの理解と対応」

秋田医療療育センター発達障害者支援部 部長 荒川 祐介 氏

参加者 142 名

<アンケートより>

- ・発達障害で悩んでいる人たちの本質は、周囲の理解が得られていないことだということが分かり、変わらなければいけないのは、関わる私たちの考えであると学んだ。
- ・私たちが普通、一般的だと思っている社会が、いかに不公平であるかも感じ、社会や環境のデザインをよりよくしていくために何ができるのかを考えさせられた。

○就学前施設職員と小学校教諭が「文字」や「言葉」について同じ講話を聞くことで同じ認識をもつことができた。グループ協議によって、校種が違っていても保護者支援では同様の悩みをもっていることが分かり、共感し合えた。

●読み書き障害に限定した内容だけではなく、年長から1年生にかけての「読み」「書き」への関心の高まりや習得についての内容だったが、就学前施設職員の参加が例年より少なかった。

◇研修内容については、受講者のニーズ（アンケート）をもとに、来年度の内容、講師を選定し、より多くの参加を促したい。

□大館市教職員研究実践発表会（1/8） 大館市教職員・就学前施設職員等対象

「幼保小の架け橋プログラム モデル自治体としての取組

～3カ年の成果と教育的効果への期待～」

大館市教育委員会教育研究所 副主幹 山本 多鶴子 氏

架け橋コーディネーター

大丸 ふさ子 氏

参加者 54 名

<アンケートより>

- ・3カ年の成果として、モデル地区である釈迦内小学校の1・2年生が「学校が楽しい」「授業が分かる」などが肯定100%になったのは嬉しいことと感じた。「架け橋」について、保育園でも主任・年長の先生だけでなく職員にも少しずつ伝わり、学区の3つの視点を意識した園内研究や保育になってきているように思う。今後も小学校との交流を深め、ねらいや振り返りを大事にした交流にしていきたいと改めて感じた。
- ・私自身人生で初めて担任となった学年が1年生だったため、幼保小連携は大変興味深いものでした。保育園を見学させていただいた時、学び合い協力し合う必要感が生まれる環境づくりがすばらしく、試行錯誤している様子をたくましく感じました。「困ったことがあったらみんなで解決」の基礎基盤が幼稚園・保育園でいねいに築いていただいていると分かりました。大館の教育にも結びついていて幼保小連携の強みにもなると感じました。

○幼保小連携の必要性や有効性が示された。幼保小関係者のみならず、中学校教諭や養護教諭の参加もあり、これまでの成果と今後の展望を発信することができた。

「体が動けば心も動く やればできる ホップステップジャンプ

～子どもの興味・関心を捉え、遊びが広がる環境の構成と援助を目指して～

たしろ保育園 主任保育士 関 千絵 氏

保育士 阿部 浩子 氏

参加者 41名

<アンケートより>

- ・子どもの内面理解と遊びの教材研究の2つを同時に進めることは大変だったと思いますが、子どもの成長と保育者の成長につながっていると感じました。「子どもの遊びは学び」と言われているので、内面を理解しつつ、子どもの姿に合わせ、成長を促すための遊びの環境の構成をしていけたらと思います。
- ・遊びについてここまで追究・研究していることが、大変興味深かったです。遊ぶことにこんなにも学びが詰まっていることを、今回の発表で実感できました。保育士の方々の子どもの内面理解の方法もとても参考になりました。

○保育の実践発表にもかかわらず小学校教諭の参加もあり、就学前は「遊びを通して学ぶこと」を再認識する機会となった。

□保育実践発表会 (2/13・14) 大館市就学前施設職員等対象

「架け橋プログラムの実践

～共通の視点『言葉で伝え合う力』『共感・協働する力』の

育ちを支え、つなぐために～

大館ホテヤこども園 主幹保育教諭 浅野 雅子 氏

保育教諭 田村 優衣 氏

参加者 38名

<アンケートより>

- ・「言葉で伝え合う力」を育むために、5歳児だけでなく0歳児から積み重ねていくことが印象的だった。0歳児にはまだはっきりと言葉を言えなくても伝えようとする気持ちがあり、伝えようとする力が保育者の援助によって言葉や発語とつながると感じた。
- ・小学校の先生たちの保育体験は、互いの環境や思いの理解につながっていると思う。小学校の先生の感想がとても新鮮に感じられ、保育を見直す機会にもつながると感じた。

○モデル校の実践を聞くことにより、園種の異なる施設が一緒に取り組むことの難しさや大変さを知るとともに、具体的にどう取り組みどう乗り越えてきたかを知る機会となった。参加者からも「参考になった」という声が多くあった。

「幼保小の架け橋プログラム モデル自治体としての取組

～3カ年の成果と教育的効果への期待～

大館市教育委員会教育研究所 副主幹 山本 多鶴子 氏
参加者 27名

＜アンケートより＞

・架け橋カリキュラムを作成するにあたり、今まで以上に小学校の先生方、同じ学区の他園の先生方との交流が増え、お互いの子どもの共通理解が深まってきているのを感じています。引き続き架け橋カリキュラムを意識しながら、園全体で取り組み保育していけたらと思っています。交流に関しては、小学校の先生方との温度差を感じる場合があります。でも、あきらめずアプローチしていくことが大切なのですね。頑張ります。できれば、小学校の先生方にももっと架け橋についての研修会に参加して、理解を深めていただけたらと思います。

○自園の取組を振り返っての感想が多くあり、架け橋プログラムに取り組んだことにより、職員同士、子ども同士の交流が増え、保育や子どもの姿の共通理解ができた・深まったという振り返りが多かった。

●就学前施設側では小学校の取組や取り組む姿勢に物足りなさを感じている。

「体が動けば心も動く やればできる ホップステップジャンプ

～子どもの興味・関心を捉え、遊びが広がる環境の構成と援助を目指して～

たしろ保育園 主任保育士 関 千絵 氏
保育士 阿部 浩子 氏
参加者 60名 (2日間)

＜アンケートより＞

・環境の構成と内面理解という、二方向からの研究実践が素晴らしいなと思いました。特に、「環境」は大切と思いつつも具体的な形で考えを共有したり話し合うことが少なかったもので、若い保育士をはじめ、保育していく上でとても有意義な研究だったのではないかなと思いました。発達段階アセスメントシート、たけのこ遊び年間計画等、目に見える形で年齢の発達や年齢で経験してほしい遊びを示すことで、環境を考える時に考えやすいという点も良いなと思いました。この研究を積み重ねていくことでさらに内面理解が深まり、そして研究内容も家庭と共有して、共に育てていくことができるなと思いました。

○主題に迫るためのアプローチの仕方は一つではなく多方向であり、自園で考え工夫していくことの大切さを知ることができたという感想が多く、他園の実践を聞く機会の必要性を再確認した。

(5) 「県との連携体制の充実」

◇県主催協議会・研修会、教育・保育アドバイザー連絡協議会への参加

- ・「幼保小の架け橋プログラム」説明会 (4/11) ・架け橋プログラム研修会 (5/14, 5/21)
- ・園長等運営管理協議会 (4/26, 8/29)
- ・教頭・主任等研修会 (5/17, 11/1) ・教育・保育AD連絡協議会 (4/23, 6/25, 8/23, 10/24)
- ・県就学前教育推進協議会 (11/22 予定) ・市ADに学ぶ研修会 (10/8, 10/30 予定)

○連絡協議会は、他市の事業内容や進め方、アドバイザーとしての関わり方、保育の見方など学び、本市の事業に活かすことができた。

○市ADに学ぶ研修会は、本市の園の保育を参観して他市ADの感想や意見をいただき、保育に活かすことができた。

◇秋田県教育庁幼保推進課との連携体制と役割分担の明確化

- ・ 県幼保推進課・北教育事務所の要請訪問への同行(21 施設)
- ・ 北教育事務所指導主事等との打合会の開催 (年2回)
〈具体的な連携〉
 - ・ 北教育事務所指導主事による市の事業や研修への支援・協力
 - ・ 市アドバイザーが依頼文書、研究内容、指導案の見直し後、各園で訂正し、その後、北教育事務所へ送付。それを受けて、北教育事務所から各園に日程・内容の確認。
 - ・ 同行訪問では、子どもの姿や保育者の関わり、環境の構成等で気付いたことを指導主事と情報交換し共有する。
- 県による教育・保育アドバイザー等の研修会参加や県教育庁北教育事務所要請訪問同行により、アドバイザーとしてのスキルアップにつながっている。また、市支援訪問の際には要請訪問での指導や助言を園と共有して改善に取り組んでいる。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(令和6年度)の成果と課題

- 架け橋充実期カリキュラムの検証の年度であったが、どの学区も中間で振り返りを行い後期の取組に活かしている。カリキュラムが実践され、実践がカリキュラムに反映されるという検証ができています。
- 今年度は6つの認定こども園の訪問に加え、2つの認定こども園が市のミニ公開保育を実施した。保育環境・保育方針などの違いはあるが互いに学び合う機会となり、大館市の教育・保育の一貫性に繋がっていくのではないかと考えている。
- 架け橋プログラム事業も含め幼保小連携の取組には、幼保と小学校の間に熱量の差がある。
- 訪問での指導・助言や研修会・公開保育での学びが実践に活かされていない園もある。
- ◇ 次年度は、全小学校学区が、完成した架け橋期のカリキュラムの実践・検証の年度となる。実践・研修への支援のための訪問を増やしたい。
- ◇ 指導・助言や学んだことが保育に活かされていくように、市支援訪問やアドバイザー訪問の実施の仕方を考える。